

## semi-stable curve の Jacobian の log-代数幾何による compact化

東大数理 梶原 健 (Takeshi Kajiwara)

### §0 序

簡単のため、本稿では  $k$  を代数的閉体とする。 $X$  を  $k$  上連結完備被約代数曲線で特異点を ordinary double points しかもたない曲線 (以下 semi-stable curve と呼ぶ) とする。このとき、 $X$  の一般ヤコビ多様体  $J_X$  は semi-abel 多様体であり一般には完備とはならない。

$$J_X(k) = \{ \text{次数 } 0 \text{ の } X \text{ 上の可逆層の同型類} \}$$

であるから、このような代数多様体  $J_X$  の完備化、すなわちコンパクト化は、コンパクト化を与えるような可逆層を拡張した概念を追求することでありそれ自身興味深い問題と思われる。

このような semi-stable curve  $X$  の一般ヤコビ多様体のコンパクト化は井草肇一氏がはじめて研究 [I] して以来、

Mumford, Mayer [MM], D'Souza [D], 浪川幸彦氏 [N] の仕事  
 があげられるが、小田忠雄氏と C. S. Seshadri は  $X$  が既約でな  
 い場合も含めて一般ヤコビ多様体のコンパクト化を Geometric  
 Invariant Theory を用いて  $X$  の偏極ごとに構成した。[OS] 後ら  
 のコンパクト化  $J_X^{\text{opt}}$  の構造は  $X$  の双対グラフ  $\Gamma(X)$  のコホモロ  
 ジー群  $H^1(\Gamma(X), \mathbb{Q})$  の多面体分割を用いて記述でき、よいコン  
 パクト化が満たすべき次の4つの性質をもつ [OS, Introduction]。

- (1)  $J_X^{\text{opt}}(k)$  は  $X$  上の幾何的な対象, rank 1 の torsion-  
 free coherent  $\mathcal{O}_X$ -加群を表す。
- (2)  $J_X$  は  $J_X^{\text{opt}}$  に作用する。
- (3)  $J_X^{\text{opt}}$  は  $k$  上 proper である。
- (4)  $J_X^{\text{opt}}$  は  $J_X$  の有限個の直和を open dense に含む。

本稿では、各既約成分が smooth である semi-stable curve  
 の一般ヤコビ多様体のコンパクト化を Fontaine-Illusie の  
 logarithmic scheme の理論 [Ka] を用いて  $H^1(\Gamma(X), \mathbb{Q})$  のあ  
 る弱い条件を満たす多面体分割ごとに構成する (§2, 定理)。  
 ここで構成したコンパクト化は  $X$  上の logarithmic structure  
 から定義されるコホモロジー群と上述の多面体分割によって  
 定義され、(2)~(4) の性質も満たす。また、ここでの構成法  
 は  $J_X$  の torus part のコンパクト化を log. scheme の観点か  
 ら直接構成し  $J_X$  のコンパクト化を構成しているため、簡明な

構成法である。(1)の性質や[OS]との関係については不明な点もあり今後の課題である。

## §1 Logarithmic schemes

この§では, J.M. Fontaine, L. Illusie が考へ加藤和也先生が研究され発展してきた logarithmic scheme の理論を復習する [Ka]。

定義  $X$  を scheme とする。  $X$  上の pre-logarithmic structure とは,  $X$  上の Zariski site  $X_{\text{zar}}$  上の可換半群の層  $M$  と半群の層の準同型  $\alpha: M \rightarrow \mathcal{O}_X$  ( $\mathcal{O}_X$  は乗法に関して半群とみなす) の組  $(M, \alpha)$  のことをいう。  $X$  上の pre-log. str.  $(M, \alpha)$  が,

$$\alpha^{-1}(\mathcal{O}_X^*) \xrightarrow{\alpha \text{ の制限}} \mathcal{O}_X^*$$

を満たすとき,  $(M, \alpha)$  を  $X$  上の log. str. といい, log. str. 付き scheme のことを log. scheme といい,  $(X, M, \alpha)$ , あるいは単に  $(X, M)$ ,  $X$  (このとき,  $\_$  をとった  $X$  で underlying scheme を表す) と表す。 log. scheme 間の morphism は自然に定義する [Ka, (1.1)]。

注1) [Ka]で  $\log, \text{str.}$  を étale sheaf で定義しているが、§2の命題1の sheaf versionの証明に必要なコホモロジー群の計算が Zariski コホモロジーでしかできていないので、ここでは Zariski sheaf として  $\log, \text{str.}$  を定義する。

2)  $X$  上の pre- $\log, \text{str.}$   $(M, \alpha)$  に対し、自然な universality をもつ  $(M, \alpha)$  に伴う  $X$  上の  $\log, \text{str.}$   $(\tilde{M}, \tilde{\alpha})$  が唯一つ存在する [Ka, (1.3)]。

例. 半群の準同型  $N \rightarrow k$  ( $1 \mapsto 0, 0 \mapsto 1$ ) は  $\text{Spec} k$  上の pre- $\log, \text{str.}$  を定義し、それに伴う  $\log, \text{str.}$  をき scheme  $S = (\text{Spec} k, k^* \oplus N)$  と書く。ここで  $N = \{0, 1, \dots\}$  は加法に肉して半群とみる。

( $\log, \text{str.}$  の逆像)  $f: X \rightarrow Y$  を schemes の morphism,  $(N, \beta)$  を  $Y$  上の  $\log, \text{str.}$  とする。合成  $f^*(N) \xrightarrow{f^*(\beta)} f^*O_Y \rightarrow O_X$  は  $X$  上の pre- $\log, \text{str.}$  を定義し、それに伴う  $\log, \text{str.}$  を  $N$  の逆像といい、 $f^*N$  と書く。

定義  $S = (S, M_S)$  を  $(\text{Spec} k, k^* \oplus N)$ ,  $X$  を  $S$  上の各既約成分が smooth である curve とする。 $X$  上の  $\log, \text{str.}$   $M_X$  が  $S$  上 semi-stable 型とは、各点  $x \in X$  に対し、ある  $x$  の開近傍  $U$  が存在して、 $M_X|_U$  が pre- $\log, \text{str.}$

$$\left\{ \begin{array}{l} N \rightarrow f^* \mathcal{O}_S \rightarrow \mathcal{O}_x, \\ N \times N \rightarrow f^* \mathcal{O}_0 \xrightarrow{\cong} \mathcal{O}_0, \\ ((1,0) \mapsto x, (0,1) \mapsto y) \end{array} \right. \quad \begin{array}{l} x \text{ が smooth point のとき,} \\ \text{そうでないとき, } U \xrightarrow{\cong} U_0 = \text{Spec } k[x,y]_{(x,y)} \\ \rightarrow S \text{ と étale 射 } f \text{ で factor して.} \end{array}$$

に半つ log. str. に  $M_S$  上可型であるときをいう。ここで  $f: X \rightarrow S$  は構造射,  $N$  は自然数のなす半群が定める定数層, それぞれの  $M_S$  上の構造射  $N \xrightarrow{\text{id}} N, N \rightarrow N \times N (a \mapsto (a,a))$  によって与える。

一般の log. scheme を扱うより次の fs log. scheme を扱う方が都合がいい。以下, log. scheme といえは, すべて fs log. scheme のことをいう。

定義 1) 可換半群  $P$  に対し,  $P$  が fine saturated (略して fs) とは,  $P$  は有限生成可換半群で

$$(a) \quad \forall a, b, c \in P \text{ に対し, } ab = ac \text{ ならば } b = c.$$

$$(b) \quad \forall a \in P^{\#}, \text{ に対し, ある } n \in \mathbb{Z}_{>0} \text{ が存在して } a^n \in P \text{ ならば, } a \in P,$$

を満たすときをいう。ここで  $P^{\#} = \{ \frac{a}{b}; a, b \in P \} / \sim (\frac{a}{b} \sim \frac{a'}{b'} \text{ def } \exists c \in P \text{ st. } cab = cab')$  とする。条件 (b) は準同型  $P \rightarrow P^{\#} (a \mapsto \frac{a}{1})$  が単射であることと同値であり, この同一視により条件 (b) を理解する。

2)  $(X, M_X)$  が fs log. scheme とは, 各点  $x \in X$  に対し, ある

$x$  の附近傍  $U$ ,  $f_S$  群  $P$  と準同型  $P \rightarrow \Gamma(U, \mathcal{O}_U)$  が存在し,  $M_x|_U$  が  $P \rightarrow \mathcal{O}_U$  に伴う  $\log$ , str. と同型である  $\log$ , scheme のことをいう。

## §2 一般ヤコビ多様体のコンパクト化の定義

この § では,  $(S, M_S)$  を §1 の例の  $(\text{Spec } k, k^* \otimes N)$  とし,  $X$  を各既約成分が smooth である semi-stable curve,  $f: X \rightarrow S$  をその構造射とする。  $X$  の既約成分を  $(X_i)_{i \in I}$ ,  $X$  の特異点を  $(Q_j)_{j \in J}$  とする。 また  $\Gamma(X)$  を  $X$  の双対グラフ, 即ち, 頂点集合が  $X$  の既約成分の添字集合  $I$ , 辺集合が  $X$  の特異点の添字集合  $J$  とするグラフで,  $X_i, X_{i'}$  が点  $Q_j$  で交わるとき, そのときに限り頂点  $i, i'$  を辺  $j$  で結ぶとする。  $\Gamma(X)$  の向きを勝手に 1 つ固定する。

さて,  $S$  上 semi-stable 型  $\log$ , str. をもつ  $\log$ , scheme  $X = (X, M_x)$  に対して,  $X$  の一般ヤコビ多様体のコンパクト化を与える  $\log$ , scheme を定義しよう。大雑把に言えば, 従来  $\mathcal{O}_X^*$  を用いた定義のかわりに  $\log$ , scheme では  $M_x$  に伴う群の層  $M_x^{\text{gp}}$  を用いて定義する。したがって, まず次数射  $H^1(X, M_x^{\text{gp}}) \rightarrow \mathbb{Z}$  を定義し, その核が  $\log$ -代数幾何での一般ヤコビ多様体である。これが従来的一般ヤコビ多様体のコンパクト化を与える。

命題1.  $S, X$  を上のとおりとする.  $p: \bar{X} \rightarrow X$  を  $X$  の正規化とする. このとき, 次の完全系列の可換図式が成立し, さらに右側の縦の準同型は同型写像である.

$$(1) \quad \begin{array}{ccccccc} 0 \rightarrow & k^* \otimes H^1(\Gamma(X), \mathbb{Z}) & \rightarrow & H^1(X, \mathcal{O}_X^*) & \rightarrow & H^1(\bar{X}, \mathcal{O}_{\bar{X}}^*) & \rightarrow 0 \text{ 完全} \\ & \downarrow & & \downarrow & & \downarrow \cong & \\ 0 \rightarrow & \Gamma(S, M_S^{gp}) \otimes H^1(\Gamma(X), \mathbb{Z}) & \rightarrow & H^1(X, f^* M_S^{gp}) & \rightarrow & H^1(\bar{X}, (fp)^* M_S^{gp}) & \rightarrow 0 \text{ 完全} \end{array}$$

ここで,  $f^* M_S^{gp}, (fp)^* M_S^{gp}$  はそれぞれ  $\log, \text{str. } M_S$  の  $f, fp$  による  $M_S$  の逆像に伴う群の層である.

証明は完全系列

$$\begin{array}{ccccccc} 0 \rightarrow & \mathcal{O}_X^* & \rightarrow & p_* \mathcal{O}_{\bar{X}}^* & \rightarrow & \bigoplus_{j \in J} k^+ & \rightarrow 0 \\ & \downarrow & & \downarrow & & \downarrow & \\ 0 \rightarrow & f^* M_S^{gp} & \rightarrow & p_* ((fp)^* M_S^{gp}) & \rightarrow & \bigoplus_{j \in J} M_S^{gp} & \rightarrow 0 \end{array}$$

のコホモロジーをとればよい. 命題1により(1)の左側の四角は(可換群の圏での)push-outであるから, 合成写像

$$H^1(X, \mathcal{O}_X^*) \rightarrow H^1(\bar{X}, \mathcal{O}_{\bar{X}}^*) \xrightarrow{\text{deg}} \bigoplus_{i \in I} \mathbb{Z} \text{ と } 0\text{-写像 } \Gamma(S, M_S^{gp}) \otimes H^1(\Gamma(X), \mathbb{Z}) \rightarrow \bigoplus_{i \in I} \mathbb{Z} \text{ によつて, 準同型 } d: H^1(X, f^* M_S^{gp}) \rightarrow \bigoplus_{i \in I} \mathbb{Z} \text{ を定義する.}$$

次に  $H^1(X, f^* M_S^{gp}), H^1(X, M_X^{gp})$  を比較する. 完全系列

$$0 \rightarrow f^* M_S^{gp} \rightarrow M_X^{gp} \rightarrow \bigoplus_{j \in J} \mathbb{Z} \rightarrow 0$$

のコホモロジーをとって計算すること. 次の命題を得る.

命題2  $S, X$  を前のとおりとする. このとき, 完全系列

$$0 \rightarrow \bigoplus_{j \in J} \mathbb{Z} \rightarrow H^1(X, f^* M_S^{gp}) \rightarrow H^1(X, M_X^{gp}) \rightarrow 0$$

が成立する。

上の図式と上の準同型  $d: H^1(X, f^*M_S^{gp}) \rightarrow \bigoplus_{i \in I} \mathbb{Z}$  との関係は以下の可換図式で表される。

$$\begin{array}{ccccccc}
 0 & \longrightarrow & \bigoplus_{j \in J} \mathbb{Z} & \longrightarrow & H^1(X, f^*M_S^{gp}) & \longrightarrow & H^1(X, M_X^{gp}) \longrightarrow 0 \\
 & & \downarrow & \searrow & \downarrow d & & \downarrow \text{deg} \\
 0 & \longrightarrow & \text{Im } \partial & \longrightarrow & \bigoplus_{i \in I} \mathbb{Z} & \xrightarrow{\cong} & \mathbb{Z} \longrightarrow 0
 \end{array}$$

ここで  $\partial$  は  $\Gamma(X)$  の chain complex の boundary map  $C_1(\Gamma(X), \mathbb{Z}) \rightarrow C_0(\Gamma(X), \mathbb{Z})$  を表す。これより  $H^1(X, M_X^{gp})$  から  $\mathbb{Z}$  への次数射が定義された。この図式に snake lemma を応用して

$$(2) \quad 0 \rightarrow H_1(\Gamma(X), \mathbb{Z}) \rightarrow \tilde{J}_X^{\log}(k) \rightarrow J_X^{\log}(k) \rightarrow 0 \quad \text{完全}$$

を得る。ここで  $\tilde{J}_X^{\log}(k) := \text{Ker } d$ ,  $J_X^{\log}(k) := \text{Ker}(\text{deg})$ 。

完全系列 (1), (2) が一般ヤコビ多様体の構成のキーポイントである。主定理を述べる前に log. scheme の Zariski 位相を定義する。

**定義**  $g: \underline{U} \rightarrow \underline{V}$  が open immersion であるとは,  $g: \underline{U} \rightarrow \underline{V}$  が open immersion かつ  $g^*M_V \simeq M_U$  のときをいう。log. scheme  $\underline{U}$  の covering  $(\underline{U}_i \xrightarrow{g_i} \underline{U})$  を,  $g_i$  が open immersion かつ  $\underline{U} = \bigcup g_i(\underline{U}_i)$  と定義して,  $\Sigma$  上の fs log. scheme の圏  $(\text{fs}/\Sigma)$  に Grothendieck 位相を定義する。



この位相で層化して (1), (2) と同様の完全系列が得られる。  
その証明は、既約位相空間上の定数層が flasque であること  
と  $M_X^{\text{gp}}/O_X^*$  が locally closed set 上定数層となることを使う。

定義 反変関手  $\text{Pic}_X^{\log}: (fs/\underline{S}) \rightarrow \text{Ab}$  を前層

$$\underline{S}' \mapsto H^1(\underline{X}_{\underline{S}'} \times_{\underline{S}'} M_{\underline{X}_{\underline{S}'}}^{\text{gp}})$$

に伴う層と定義する。また、命題 1 を層に拡張して  $\text{deg}: \text{Pic}_X^{\log} \rightarrow \mathbb{Z}$  を定義することができ、

$$J_X^{\log} := \text{Ker}(\text{deg}: \text{Pic}_X^{\log} \rightarrow \mathbb{Z})$$

と定義する。

定理  $\underline{S} = (\text{Spec } k, k^* \oplus \mathbb{N})$ ,  $X$  を各既約成分が smooth な semi-stable curve,  $\Gamma(X)$  を  $X$  の双対グラフとする。また  $M_X$  を  $\underline{S}$  上 semi-stable 型の  $X$  上の log. str.,  $\underline{X}$  を  $\underline{S}$  上の log. scheme  $(X, M_X)$  とする。  $\Sigma$  を  $H^1(\Gamma(X), \mathbb{Q})$  の双対体分割で次の i) ~ iii) を満たすものとする。

i) 任意の頂点  $v \in \Sigma$  に対し、

$$\#\{\Delta \in \Sigma; v \text{ は } \Delta \text{ の face である.}\} < \infty$$

ii)  $H_1(\Gamma(X), \mathbb{Z})$  を  $H^1(\Gamma(X), \mathbb{Z})$  の部分群とみなしたとき [OS, I, 4],  $\Sigma$  は  $H_1(\Gamma(X), \mathbb{Z})$  の作用 (平行移動) で安定である。

iii) 任意の 0 でない  $a \in H_1(\Gamma(X), \mathbb{Z})$ , 任意の  $\Delta \in \Sigma$  に対し

$$(a + \Delta) \cap \Delta = \emptyset.$$

このとき,  $J_X^{\log}$  の部分層  $J_{X, \Sigma}^{\log}$  (集合の層) で  $\Sigma$ -log. scheme  $J \rightarrow \Sigma$  で表現可能で次の (1) ~ (3) を満たすものが存在する。

(1) underlying schemes の射  $J \rightarrow \Sigma$  は proper である。

(2) underlying scheme  $J$  の各既約成分は,  $X$  の一般化コセの標体  $J_X$  を open かつ dense に含む。

(3)  $J$  には  $\Sigma$  の log. str. の逆像をもつ  $J_X$  が自然に作用する。

( (2) の包含関係下同視を与えたとき, この作用は  $J_X$  の積を延長した作用である。 )

注 1)  $X$  が smooth のとき,  $J_{X, \Sigma}^{\log} \simeq J_X^{\log}$ ,  $J \simeq J_X$ .

2)  $X$  は  $\Sigma$  上 log. smooth [Ka, 3] であり,  $J_{X, \Sigma}^{\log}$  も  $\Sigma$  上 log. smooth である。

定理の証明の概略  $(f_S/\Sigma)$  から  $Ab$  の反変関手  $\Sigma' \mapsto \Gamma(S', M_S^{\mathbb{P}})$

(resp.  $\Sigma' \mapsto \Gamma(S', C_S^*)$ ) を  $G_m^{\log}$  (resp.  $G_m$ ) と表す。多面体分割

$\Sigma$  から  $T^{\log} = G_m^{\log} \otimes H^1(\Gamma(X), \mathbb{Z})$  の表現可能な部分層  $T_{\Sigma}^{\log}$  を定義す

る [Mum, 6]。  $T_{\Sigma}^{\log}$  の各既約成分は  $\Sigma$  上 proper  $T \rightarrow \Sigma$  を open かつ

dense に含む。  $T_{\Sigma}^{\log}$  の定義については [Ka, 3]。完全系列 (1)

により  $J_X$  を  $J_X$  上の  $T = G_m \otimes H^1(\Gamma(X), \mathbb{Z})$ -torsor とみたとき,

$T_{\Sigma}^{\log}$  を fibre にもつ  $J_X$  に伴つ fibre 空間  $\tilde{J}_{X, \Sigma}^{\log}$  は表現可能な

層で、前層  $(\Sigma' \mapsto H'(\underline{X}_{\Sigma'} \Sigma', f_{\Sigma'}^*, M_{\Sigma'}^{\text{gp}}))$  に伴う層の部分層である。完全系列 (2) と  $\Sigma$  の条件 ii), iii) より  $\tilde{J}_{X, \Sigma}^{\text{log}}$  の  $H_1(\Gamma(X), \mathbb{Z})$  による商  $J_{X, \Sigma}^{\text{log}}$  が表現可能となる。  $J_{X, \Sigma}^{\text{log}}$  は  $\mathcal{J} \rightarrow \Sigma$  で表現されるとする。  $\mathcal{J} \rightarrow \Sigma$  が性質 (1) を満たすことは  $\Sigma$  の条件 i),  $H'(\Gamma(X), \mathbb{Z})$  における  $H_1(\Gamma(X), \mathbb{Z})$  の指数が有限であり、  $T_{\Sigma}^{\text{log}}$  の既約成分が proper であることから従う。性質 (2) は  $T_{\Sigma}^{\text{log}}$  の対応する性質より従う。性質 (3) は、準同型  $H'(X, \mathbb{Q}_x^*) \rightarrow H'(X, M_x^{\text{gp}})$  によって  $J_x$  が  $J_{X, \Sigma}^{\text{log}}$  に作用し、この作用は定義から  $J_x$  の積を延長した作用である。 Q.E.D.

## References

- [D] C. D'Souza, Compactification of Generalized Jacobians, Thesis, Tata Institute, Bombay, 1973.
- [I] J. Igusa, Fiber systems of Jacobian varieties. I, II, III, Amer. J. Math. 78 (1956) 177-199; 745-760; 81 (1959), 453-475.
- [Ka] K. Kato, Logarithmic structures of Fontaine-Illusie, in "Geometry, and Number Theory", The Johns Hopkins Univ. Press., 1989, 191-224
- [Kaj] T. Kajiwara, Logarithmic compactifications of the generalized Jacobian variety, preprint.

- [Mum] D. Mumford, An analytic construction of degenerating abelian varieties over complete rings, *Compositio Math.* 24 (1972), 239-272.
- [MM] A. Mayer and D. Mumford, Further comments on boundary points, Amer. Math. Soc. Summer Institute, Woods Hole, Mass, 1964
- [N] Y. Namikawa, A new compactification of the Siegel space and degeneration of abelian varieties. I, II, *Math. Ann.* 221 (1976), 97-141, 201-241.
- [OS] T. Oda and G.S. Seshadri, Compactifications of the generalized Jacobian variety, *Trans. of Amer. Math. Soc.*, 253 (1979), 1-90.